

ちよつといし話

～ 遍路 P A R T III ～

今年も5月19日から12日間を掛けて本四国八十八ヶ所、番外18ヶ所を巡錫させて頂きました。今回は仏教、神道には決められた数があり、それを如何に守っていくべきかを考えさせられました。神仏の行事は風土に慣習として現在も重要な役割を持っています。しかしながら、司る人々によって、だんだん様変わりしてきた様に思えます。神仏よりも人間様のほうが偉くなってしまったのでしょうか。

今回も沢山の納経帳のみが各札所巡りをしていました。本人が八十八ヶ所を巡って参拝をするから良いのであって、空海大師は無理に来いとは言われません。なぜならば霊場はスタンプ、ラリーではありません。何事も趣旨をしっかりと見極め行動してしかるべきだと思います。世相が青少年の教育を心配していますが青少年の育つ環境はその親達が作っている社会である事を忘れて、解決はしない問題であると思います。人間として共同生活をする為のマナーは各家庭で子供に教えるのは当然の事です。例えば箸の持ち方、皆さんテレビの食事番組を見てどうですか、箸の使えないタレントがほとんどです。苦情がくるそうですが使えるタレントが少なくて仕方が無い状態だそうです。親が出来なければ、その子供はほとんど出来なくなるのは当然の事でしょう。今や、親と一緒に生活し、伝々相承している家庭が少なすぎます。仕方が無いでは済まされません。

空海大師が中国から帰られてから1200年になります。いまだにその教えは残り伝わっています。それも家庭といった小さなものでなく大衆のものとしてです。四国遍路は道中でも南無大師遍照金剛と称えています。この言葉の意味ですが大師は空海大師様で、遍照は即ち大日如来様でありますから、両方を敬います。と云う事です。続く我々も大衆から敬慕される人と成れるように精進することが社会生活に光明を与える事になります。精進しましょう。 天網恢恢

善入院油掛地藏尊